

令和5年度 大阪府立高津高等学校 第1回学校運営協議会 会議録

日時： 令和5年7月18日(火)18時30分～19時15分 (12月19日(火)18時～18時10分)

場所： 本校校長室

出席者： 委員 森田 英嗣 (大阪教育大学教授) <オンライン参加>

安田 智則 (前PTA会長) <オンライン参加>

岡田 邦弘 (PTA会長)

古門 真一 (同窓会副会長)

事務局 立川 猛士 (校長)、井上 博人 (教頭)、大谷 則明 (事務長)、

前川 紘紀 (首席)、中原 章太 (首席)、井濱 友輔 (首席)、

東 正浩 (記録係)

1. 挨拶(校長より)

近況報告

- ・1年生の勉強合宿において生徒の満足度100%であった。
- ・府内全域から入学した生徒たち ⇒ 仲間づくり、チームビルディングの機会となっている。
- ・体育祭はコロナ前の競技(騎馬戦等)が復活し、新たなスタートを切った。保護者も延べ1000人を超える人が見学した。
- ・R4GLHS 評価審議会があり、本校の昨年度評価がAAであった。さまざまな取り組みを行うことで、高い進学実績をあげていることを評価していただいた。

2. 学校からの説明

(1) 令和5年度「学校経営計画」の進捗状況等について

- ・学校運営上の課題：学校の組織的運営、校務の効率化及び情報共有について

⇒ 首席を3名+指導教諭による学校運営体制とした。

首席：各学年、各分掌、各種委員会を横断的に統括し効率化、情報共有を図る。

指導教諭：観点別評価にかかる情報共有、評価のスタンダードを構築へ。

(2) スクールポリシー案について

- ・グラデュエーション・ポリシー

- ・カリキュラム・ポリシー

- ・アドミッション・ポリシー

⇒ 学校経営計画の文言をそのまま活用し、一般府民の方々にもわかりやすく作成

(3) SSH第IV期の指定について

- ・地域の拠点校として、グローバルな舞台で次世代を牽引する科学技術リーダーの育成プログラムを実践していく。

(4) 大坂教育ゆめ基金の活用について

- ・デジタルサイネージを各フロアに複数台設置していく。目標額400万円。
ふるさと納税のしくみを使い、8～10月に募集する。次年度設置予定。
- ・校内における生徒への創造探究事業等の情報発信、教職員へも情報共有。

(5) 各種事業について

①高津高校クリエイトラボ・セミナー（2年めへ）

- ・昨年度よりクリエイトラボにて、月1回卒業生による特別講演会を実施している。
毎回30～70名程度の生徒・教職員が参加している。
機材の設定・講師の選定等の運営は、同窓会が行っている。

②SSH交流会支援事業（JSTに2年連続で採択された）

- ・高津高校生がTAとなって科学実験教室を運営し、地域の中学生等にレクチャー。
- ・他校へ課題研究の成果や課題研究のノウハウを普及。
- ・本校を会場として中学校の科学部等を招待し、成果発表会の開催を模索している。
- ・現在最前線で活躍している卒業生を招聘し、生徒たちに刺激を与える。

③さくらサイエンスプログラム（JSTに2年連続で採択された）

- ・東アジア・太平洋地域の高校生による環境調査研修。
- ・海外5校の高校生を本校に招聘し、河川の水質検査等の共同調査研究。

④GULS (Global Understanding with Local Skills)

- ・国際交流センターの自走となり、広く市内高校への公平な募集になっている。
⇒ 次年度本校を会場とすることで、共同事業として再構築することを検討中。

⑤その他

- ・現在、次年度教科書を選定しており、教育庁に提出中。

3. 質疑応答・討議

委員：本年度の学校経営計画においても充実した計画また実践が行われており、感心している。中期目標1（1）アのところで、R4の数値が抜けているようだ。

校長：R4についてはR3と変わらない数値となっている。（R4:3.41）

委員：中期的目標2（2）自治会活動に対する肯定率についてR3は達成しているがR4については下がり気味である。また中期的目標3の校内研修の肯定率についても下がり気味であるので、そのあたりの分析をお願いしたい。

デジタルサイネージを設置するにあたり、400万円をふるさと納税のしくみで集めると説明があったがどのようにするのか。

校長：まず自治会活動について。生徒の行事に対する満足度は高いが診断の数値は伸び

ていない。自分たちがやっているんだという意識に変えていきたい。生徒の動きがわかるようにすることが必要である。

研修については、働き方改革の中で研修の時間をとることは難しい。職会時に行うと勤務時間を越えるので自主的な研修（参加自由）を取り入れ、効果的に行っている。ただし、観点別評価の研修については全体で行う必要がある。

デジタルサイネージについては、学校に対する寄附行為がふるさと納税の制度を活用できるため、2000円を超える分については税制上の控除がある。本校及び同窓会のHPにて呼びかけ、保護者・同窓会の方を中心に本校に興味を持っている方々に広く募集したい。

委員：学校の評価について、最初にAAという話があったが、平均的にはどのくらいの評価をもらっているのか。

校長：GLHS10校のうち、AAの評価を受けている学校が5校、Aの評価が5校である。項目ごとの個別の評価としては、学力調査や外部入学テストへの参加、課題研究の活動、進学実績についてはAAAをいただいている。ただし英語運用能力については、本校で海外オンライン交流等さまざまな取り組みを行っているが条件として、英検2級等への新たな受験数や合格数があるので、C評価となっている。この指標でよいのかという意見も委員から出されたため、今後教育庁側が検討していくと考えられる。

委員：SSH第IV期について、科学技術リーダーの育成があげられていたが、育成できたかどうかの自己評価はされるのか。

校長：本校が15年間やってきた中で卒業生へのアンケートを実施した。約4000人に対して25%の回答があり、文科省から、様々な研究者を輩出している実績を評価されている。今後もアンケート等で自己評価していく。

委員：中期的目標1（1）イ国公立大学への現役生合格数、R2～R4まで目標数を超えている。130人以上というのは設定が低いのではないか。過半数をめざすなど高い目標でよいのではないか。

英語の学力についていろんな資格があり、資格を持っている生徒に対して推薦を行うということが多くなっている。先ほどC評価の話もあったが取り組みを進めていく必要があるのではないか。

校長：実際に130人という数字をクリアしているので今後修正を検討していく。

英語については校内で受験できるような体制づくりを考えている。入学時に英検2級を取得している生徒が一定数存在するので、次は準1級への意識づけをしていきたい。

教頭：スクールポリシー案について承認をいただきたい。ご意見を頂戴したい。

各委員：特にない。これでよい。

教頭：第2回の学校協議会は12月を予定しているのでよろしく申し上げます。これで第1回学校協議会を終わります。